



北海道発オンラインフォーラム

がんと生きる

～こころとからだ 私らしく～

今回のテーマ

最新エビデンスからみもとくがん治療と暮らし



11月7日(日) 日直オンライン

科学的根拠“エビデンス”をもとに成果をあげるがん医療。

研究者や医療者の思いとともに、そこには多くの患者の治療経験が蓄積されています。

今回のフォーラムでは、その“エビデンスとは何か”からはじまり、

今後進むであろう“個別化治療への道筋”を探ります。是非ご参加ください。

2021年 **11月7日(日)**

開演：午後1時30分 終演予定：午後4時10分 ※途中休憩あり

※インターネットでのライブ配信です

題字 / 延 哲也 写真 / 中川 えり子 デザイン / ハナデザイン

■ 主催 社会福祉法人NHK厚生文化事業団 株式会社NHKエンタープライズ 読売新聞社 ■ 後援 NHK札幌放送局 厚生労働省 北海道 札幌市
■ 協賛 ツムラ



北海道発オンラインフォーラム がんと生きる ～ここから私らしく～



ゲスト

はら ちあき
原 千晶

タレント・よつばの会 代表

1974年北海道帯広市生まれ。1994年、20歳の時に「クラリオンガール」グランプリに選出され芸能界デビュー。以降、雑誌・TV等を中心にタレントとして活動。2005年、30歳の時に子宮頸がんの宣告を受ける。2009年の年末に再度子宮にがんが見つかる。2010年に発覚した子宮体がんの治療のため、手術と抗がん剤治療を受ける。2011年7月、自身のがん経験から婦人科がん患者会「よつばの会」を設立。以降、がん経験者として各地でがん啓発の講演会やイベントに積極的に参加している。



パネリスト

こまつ よしと
小松 嘉人

北海道大学病院 腫瘍センター
化学療法部・CancerBoard部 診療教授・部長

1989年に東京医科大学卒業後、北海道大学医学部第三内科に入局し消化器内科診療に従事。その後、がん診療に興味を持ち、1993年から国立がんセンター中央病院薬物療法部に国内留学し、がんの薬物療法について学んだ。北海道に戻り2001年から北大第三内科助手として科内に化学療法グループを立ち上げ、2004年には腫瘍内科助手、2006年から地域医療連携センター講師、2008年から腫瘍センター立ち上げに従事し腫瘍センター准教授、2011年からは現職である腫瘍センター診療教授として大学病院のがん診療の発展に寄与してきた。最先端のがん薬物療法の開発のみならず地域医療連携にも興味をもち、診断から最新治療～緩和ケアまで、がん患者のトータルケアを目指して診療・研究に関わっている。



パネリスト

いまづ よしひろ
今津 嘉宏

芝大門いまづクリニック院長
藤田医科大学医学部客員講師

1988年藤田保健衛生大学医学部卒後、慶應義塾大学医学部外科学教室に勤務。慶應義塾大学病院、南多摩病院（旧 国保南多摩病院）などで医療に従事。2011年の震災を機に、現場で患者と直接かわる仕事がしたいと考え、患者のそばにいられる町医者を目指し、芝大門いまづクリニックを開業。慶應義塾大学病院では、外科医として主に消化器がんの患者の治療を行うなかで外科学の治療で救いきれない患者を、漢方という別のアプローチでサポートする論文に出会い、同大学の漢方医学センターで本格的に漢方医学を学ぶ。その後、がん治療に西洋医学と漢方医学を区別せず、「頭のてっぺんから足の先まで」を合言葉に総合的な観点から診療にあたっている。



パネリスト

おおしま すみこ
大島 寿美子

北星学園大学 文学部 心理・応用コミュニケーション学科 教授

千葉大学大学院理学研究科生物学専攻修士課程修了、北海道大学大学院医学研究科博士課程修了。記者として通信社、新聞社に勤務し、がんの取材をしたのをきっかけに、がんと社会に関する研究と実践をする一方、異なる立場や人々の「関係性」についてコミュニケーション研究を行う。NPO法人がんサロニビ北海道理事長。がんに関する一般書に『がんサロニビ サポート実践ガイド』（共著、みんなのこぼし舎）、『北海道でがんとともに生きる』（編著、寿郎社）など。

ご出演を予定していた河野透先生はご都合により欠席となりました。



コーディネーター

まちなが としお
町永 俊雄

福祉ジャーナリスト

1971年NHK入局。「おはようジャーナル」キャスターとして教育、健康、福祉といった生活に関わる情報番組を担当。2004年からは「福祉ネットワーク」キャスターとして、うつ、認知症、自殺対策などの現代の福祉をテーマに、共生社会の在り方をめぐり各地でシンポジウムを開催。現在はフリーの福祉ジャーナリストとして活動が続けている。

■ プログラム 開演：午後1時30分 終演予定：午後4時10分

※午後1時から主催・協賛からのご案内が配信されます。映像・音声適切に受信できているかご確認ください。

- 【第1部】 ・科学的根拠“エビデンス”とは何か
・進化するがん治療と支持療法

休憩

- 【第2部】 ・“ナラティブ(語り)” もう一つのアプローチ
・患者の“語り”が未来をつむぐ

■ オンラインフォーラム 「がんと生きる」今後の予定

◆2022年1月30日（日） 京都発

※今後の新型コロナウイルス感染症の影響等により変更が生じる場合がございます。

■ 問い合わせ

NHK厚生文化事業団「がんフォーラム」係
電話 03-5728-6633 (平日 午前10時～午後5時)



北海道大学「学術交流会館」より配信いたします。

(会場での観覧はできません)



学術交流会館は、世界に開かれた北大を目指して国内外の学術交流の場として昭和60年3月に建設されました。国際会議や講演会、学会などにご活用いただけます。

写真提供

中川 えり子さん



私が中学生の時に母が乳がんになりました。患者家族の立場になって、母と一緒にホッとしたり、心が静かになれたり、時間の大切さを実感しました。私が撮影した写真を通じて、皆さまの心が少しでも和らぎますように願っています。